

(475)

か、第二極體の爲に授精せらるゝか或は染色體は分割するも、それに應じて其細胞は分割せざるによらん、一般に單性生殖は、一年中の或時期に俄かに個體發生の旺盛なるか又たその動物の一生中の或時期にその動物の俄かに増す時に起るが如し、單性生殖の現はれたることに就て考ふるに蚜蟲には割合に雌少なく、蜜蜂には雄少なきによる事もあるべく、又動物の習性上、雌雄合一するの機會少きより、雌は無性的に生殖を初めたるか、次で氏は單性生殖と雌雄發生決定の問題との關係を論じたり、多くの學者が雌雄の兩性孰れとなるやに就て、其卵の尙卵巢に存する時已に定まる者なりとの諸説は、單性生殖に根據を有する者なるが如し。

(Proc. Amer. Phil. Soc. XLII(1904)p.p. 275—345.)

(田中)

●新著紹介

●日本蝶類圖說

理學士宮島幹之助君著 目黒書店發行
定價四圓 郵稅十五錢 大版形

本書は曾て著者が本誌に連載せられたるものを、今回改訂増補して、江湖好學の士に頒たれたるものにして、増

補の重なるは總論にして、之に蝶類の形態、生態、飼育法、採集法、保存法等を含み、附録には、日本蝶類科屬名検索表及分布表等あり、圖畫の天然色にして美麗なる、本邦稀に見るの好著にして、訂正、研鑽の勞頗る著大なれば、我國博物學者には最も善き羅針盤なるべく、吾人の尤も双手を舉げて歡迎する處の者なり。

●日本醫學史

ドクトル富士川游君著 裳華房發行
定價四圓五十錢 小包郵稅二十錢菊判

本書千三十六頁に渉るの大著にして、氏が醫術的眼光より日本醫學の歴史を叙述したるものなれば、啻に年代記の如く事實を取捨せずして縷述せるものとは、大に撰を異にせり、本書分て太古、奈良朝以前、奈良朝平安朝、鎌倉時代、足利時代、織豊二氏時代、徳川時代、明治時代とし、各綱精細に編纂せられたれば、氏が多年の刻苦察するに餘あり、卷末には、日本醫事年表、索引等ありて讀書家諸君の頗る便利に感ずる處なるべく、印刷事業の發達とは云へ、かゝる大著を發行する裳華房主人の勉勵頗る多とすべきものなり。

●愛媛縣產珍魚 會員井澤九一氏は本年十月二十日愛媛